

家族介護、女性に偏り

同居、別居ともに7割

4日に公表された2022年国民生活基礎調査では、同居する家族の介護を担う「介護者」のうち、68

・9%が女性だった。男性は31・1%。別居している家族の介護者の場合でも女性が71・1%を占め、家族

介護が女性に偏っている傾向が明らかになった。

同居している家族を介護する時間を尋ねたところ、全体の19・0%が「ほとんど終日」と答えた。このうち、女性が74・5%だった。介護が必要な人の介護を主に誰が担っているか聞

いたところ、配偶者、子どもなど同居する家族や親族が全体の45・9%で、19年の前回調査より8・5%減少した。一方、事業者と答えた人は15・7%で前回調査より3・6%増えた。

在宅で介護が必要な人がいる世帯のうち、核家族世帯が42・1%、単独世帯が30・7%を占めており、いずれも増加傾向にある。厚生労働省の担当者は「今後、事業者に介護を依頼する世帯はますます増えるだろう」と分析している。

家族介護を巡っては、働きながら家族の介護を担う人の支援や介護離職防止が課題となっている。